

とよたち 美月几通信

4月号 VOI.153



☆あかり☆



4月

今月号のとびろ美肌通信の表紙は

大きなサクラの木に満開のサクラが

手紙に咲いていて春を感じますね!!

表紙の絵を描いてくれた女の子とおいしそうな

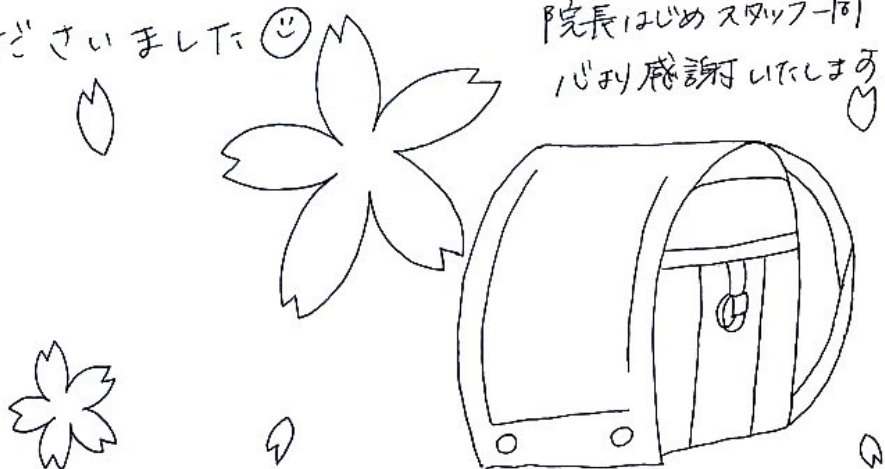
お団子で楽しいお花見ですねよ

歌を歌うことが好きで、

スイミングが得意な女の子が描いて

くださいました😊

院長はじめスタッフ一同
バカ感謝いたします。



特事が上手くなりたいとか、出来る様になりたいとか願わたり人はいない。これは全ての人々が持つ向上心の一つとも言えよう。しかし厄介なことに到達するには努力が不可欠である。しかし努力とはある意味最低限の条件であると同時に糸継糸続維持しなければならぬ最難関課題でもある。

過去に読んだ本に次の様なくだりがあった。それぞれの世界が一道を切り開いてきた一流といわれる先達の方々には、全てに共通する条件があるという。それは「素直」であること。実にシンプルである。即ち素直な人でなければ運命を伸ばすことはできないというのである。では逆に運命を伸ばせない人に共通する言動は何であろうか。それは「ねたむ そねむ むかむ うらむ にくむ」、そういう素行の人に運命は開けることはないのだがというのが推して知るべきである。

昭和初期、岩波英和辞典を編纂した田中菊雄という人がいた。学歴は高等小学校中退。現JR(旧国鉄)の客車給仕係をしながら刻苦勉勵18才で小学校の代用教員になった。その後、旧制中学

及び高校の教員資格を取り、晩年は山形大学の教授も務め 82才で生涯を閉じている。その田中氏の言葉である。私が国鉄の給仕係の辞令を受けとって家の神棚に捧げた時の気持ちは今も忘れられない。他の少年は親から費用を出してもらって学校へ通える。しかし私は明日から働いて父母の生活の重荷の一端を担わしてもらえるのだ。私の働いて得たお金で父母を助け、また私の修養のための本も買えるのだ。私は本当の学校、社会という大学校へこんな幼くして入学を許されたのだ。ありがたい、本当に良い給仕として働こう。こう思うと熱い涙が頬を伝って流れたのである。10才前半の少年が初めて職に就いた時、心に誓った決意が以上である。何と云うべき青雲の心であるうか。

「ねたむ そねむ むがむ うらむ にくむ」はいくらでも持てたであろう。しかしあることが少年田中氏は自分の運命を素直に受け入れ、心を高め運命を伸ばしたのである。この少年田中氏の思慮の広さ深さに感応し、私も人生に誓いをもって歩んでいきたいものである。

院長、拝